

中間論点整理に至る議論の経過等

- バージョンアップに向け、2021年12月から外部有識者で構成する意見交換会を開催
- 第1回、第2回の意見交換会で、大阪・関西の成長に関連する意見が多く出されたことから、社会潮流と成長の関係も意識しながら、ここ20年程度の世界経済の動きと、この間の日本の状況を大きく総括することから議論をスタート
- このほか、意見交換会では、経済界や府市の産業支援機関など、ゲストスピーカーからの意見聴取や、大学生との意見交換、大阪のまち・人のイメージ等の府民アンケート調査を実施
- これらを踏まえ、2022年9月に「中間論点整理」を取りまとめた

- 今後、中間論点整理をもとに、意見交換会での議論をさらに深化させる。
- 並行して、副首都推進局としてビジョン本体のバージョンアップに向けた検討を進める。
- 来年（2023年）当初をめどに、バージョンアップ案を取りまとめる。

主な議論の内容

世界経済の動きや日本の状況からの分析

- ◆ 主要国が一定の経済成長を遂げる中、日本は長期にわたり低迷。生産性が低く、産業構造が固定化し、人材の多様化・流動化も進んでいない状況。こうした日本の抱える課題が大阪においてより端的に表れている。

国内外の他都市の戦略から学べること

- ◆ 国内都市に加え、コペンハーゲン、マンチェスター、トロント、シアトル、シンガポール、深圳を分析
- 地域の強みを活かし、社会情勢の変化に合わせ、既存産業の高度化や新産業の育成など産業構造の転換が必要
- デジタルを最大限活用し、ものづくり基盤と第三次産業を融合させた製品・サービスの開発、また、それを支える人材の育成や流動化、呼び込みを図るとともに、ウォーカーブルシティなど、人材にとって魅力的なまちづくりの取組が必要
- イノベーションの源泉となるスタートアップの支援や、行政と民間、大学、研究機関とのパートナーシップの構築が必要
- 都市の成長を強力に推進するリーダーシップ、経済圏に応じて自治体の枠を越えた広域連携、国と自治体による成長に向けたビジョンの共有が必要

など

大阪の特性・ポテンシャル

- ◆ 多様な個人に対し寛容度の高い風土があり、高い開放性、エネルギッシュといった都市イメージを持ち合わせている。
- ◆ こうしたイメージに加え、多くの府民が大阪の成長を感じており、とりわけ、若者は成長への関心が強く、また、ウェルビーイングや環境配慮の重要性など、社会課題への意識も高い。

※その他「中間論点整理」の詳細は、次のホームページをご覧ください。

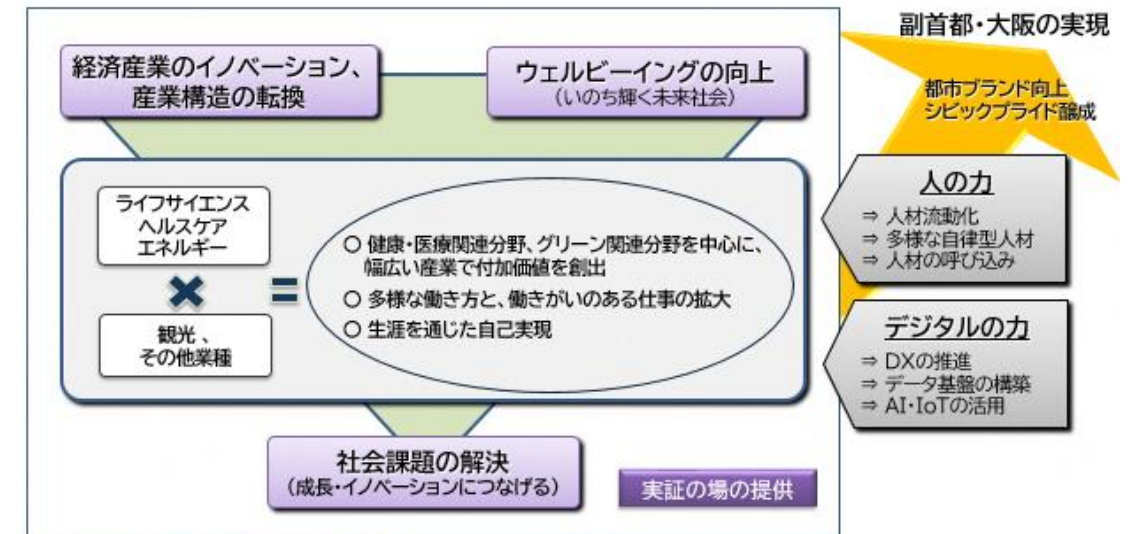
<https://www.pref.osaka.lg.jp/fukushutosuishin/fukusyutobijon/ikenkoukan.html>

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushutosuishin/page/0000550786.html>

中間論点整理のポイント

- ◆ 大阪のめざす副首都の言わば「核心」が経済的副首都の実現であることを改めて明確化
- ◆ 海外都市の戦略に学び、世界を視野に成長していくことが重要
- ◆ 経済的副首都の実現に向けて、未来を担う若者を起点に考えることが重要
- ◆ 近年、とりわけコロナ拡大後の若者を中心とした意識の変化などを踏まえ、「経済産業のイノベーション、構造転換」、「ウェルビーイングの向上」及び「社会課題の解決」を一体と捉えて進めていく『副首都・大阪の経済モデル』を構築
- ◆ 大阪・関西の強みであるとともに、大阪・関西万博に向けて、ウェルビーイングや社会課題と親和性が高いライフサイエンス・ヘルスケアとエネルギーの二つを基軸に、観光はじめ他の分野とかけ合わせることで、成長を実現
- ◆ 経済モデルでは、全国に先駆けた、東京にできない実証の場をめざす
- ◆ 経済モデルを支える基盤部分として、とりわけ『人の力（人的基盤）』と『デジタルの力（DX基盤）』を重視

副首都・大阪の経済モデル（イメージ）



意見交換会における今後の議論予定

- 国内外の都市の分析や大阪の特性・ポテンシャルを一層掘り下げながら、住民の共感等の観点を踏まえ、『副首都・大阪の経済モデル』をさらに具体化
- モデルのどこが最も重要で、何に優先的に注力すべきかなど、検討の深化
- 経済面等からふさわしいと考えられる副首都の圏域設定やその枠組みがどうあるべきか、国における必要な環境整備としてどのようなことが考えられるか、などの検討
- 住民をはじめとしたステークホルダーへの訴求力のある共通目標や目標年次、工程の設定、実効性を担保する仕組みなどの検討